これでいいのか!?大阪の教育

写真の「府民学習会」をたまたま知って、上本町 6 丁目に向かった。あまりにも酷い大阪の教育に関心があること、それと会場がなんとも懐かしかったからだ。会場は「大阪府教育会館たかつガーデン」。昔は「上六の教育会館」と呼んでいた(写真は案内リーフレット)。

大阪市立大の大学院博士課程 1 年のときだ。今から 43 年前、この会館で「結婚式」をあげた。院生の身であり、とにかく質素な結婚式だったが、恩師宮本憲一先生ご夫妻に「仲人」を務めてもらった。信州大の仲間 6 人も参加してくれて、ともに「春寂寥」を歌った。遠い昔の忘れられない思い出だ。建物は建て替えられ、8 階建てビルとなったが、当時の華やいだ気分を味わいたくて会場に入った。

学習会の「教育シンポジウム」は、華やいだ気分を吹き飛ばした。小・中・高の現役の教師と保護者が、教育の現場と子どもたちについて語る。教師の生の声を聞く機会がなかったので、教育現場のリアルな話に集中して耳を傾けた。

小学校の 9 年目の教師は、5 年の担任だが、毎日が忙しい。産休・育休の「代替」が確保できないことが多く、生徒・教師にしわ寄せられている。中学の教師は、テストに追いまくられている現状、とりわけ「チャレンジテスト」による生徒の成績評価が、悩ましい問題であると。高校の教師は、統廃合・高校つぶしの現実、卒業生らとの交流、保護者はテストに追いまくられる中学生活、「チャレンジジテスト」による学校の序列化、高校入試への影響などについて語る。

大阪の教育は、ここ 10 年余りで様変わりしたという。「維新政治」が、教育面にも色濃くあらわれている。政治の教育への露骨な介入であり、教育現場を混乱させ、生徒や子どもたちに深刻な影響をあたえている。時間に余裕がありそうだったので、挙手をして感想を述べた。「チャレンジテスト」のように、誰が見てもおかしなことが行われているのに、教師たちは黙っているのか、学校現場での議論などを聞きたいと質問した。現場の教師からは、反対の声はあるが、学校では校長も含め、「モノが言えない」状況だ。「チャレンジテスト」を中心にした点数主義、学校や教員の評価システムをどう代えていくのかが課題だという。

寝屋川の教師からのコメントにも驚いた。寝屋川では、市の広報に「全国学力テスト」の学校別評価が掲載され、市民から批判の声も出ている。集会後、その教師から広報について聞いた。数年前から実施されており、昨年 12 月広報に 29 年度分が掲載されているので見てほしいと。帰宅後にネットから広報を見ると、4 ページにわたり、「全国学力・学習状況調査の結果について」、中学校区別に学校ごとにグラフ表示してあった。こんな酷いことが行われている大阪の教育について、しっかり目を向けていきたい。

(2018 年 10 月 10 日)